第２版・2010･10

コンパクト型小規模合併処理浄化槽

ＴＲＢ-14～35 型

ＴＲＢ 2-40～50 型

施 工 要 領 書

⚠ 注意

・注意表示の部分は、浄化槽を施工する前に注意深く読み、よく理解して下さい。
・この施工要領書は、施工業者にお渡しください。

Daiki AXIS

目　　次

１．はじめに..... 2

２．ＴＲＢ型の構造と機能..... 2

３．警告表示..... 3

４．施工上の留意事項..... 4

５．施工開始前にお確かめください..... 5

６．工事の段取り..... 6

７．施工の手順と注意事項..... 7

８．試運転時の確認事項..... 18

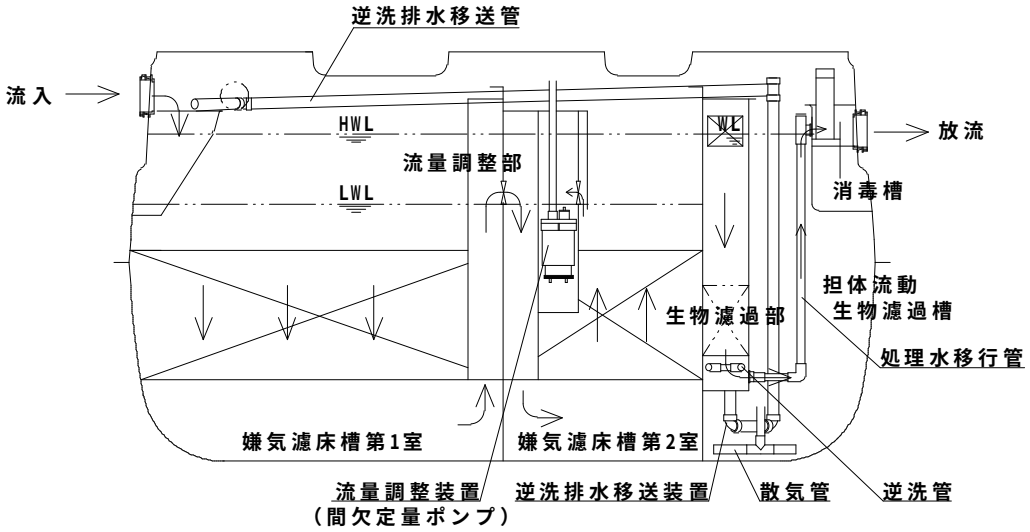
９．竣工検査と引き渡し..... 21

１.はじめに

ダイキ浄化槽をご愛顧頂き厚くお礼申し上げます。
ご利用される皆さまに、ＴＲＢ型(ＴＲＢ２型)についてより深く理解していただき、正しいお取り扱い方法により、浄化槽本来の優れた機能が発揮できるよう、施工要領書を作成いたしました。ぜひ、目を通していただき、適切な施工のためにお役立てください。

２．ＴＲＢ型（ＴＲＢ２型）の構造と機能

ダイキ小規模合併処理浄化槽ＴＲＢ型(ＴＲＢ2)の構造と機能は以下の通りです。
ＴＲＢ型（ＴＲＢ２型）の特性を十分ご理解の上、浄化槽工事にあたってください。



人槽　　14･16･18･21･25･30･35･40･45･50 人槽

■ 嫌気濾床槽

流入汚水中に含まれる固形物や夾雑物を分離し、分離された固形物を貯留すると共に、嫌気性菌による BOD の低減を図ります。

■ 流量調整部

嫌気濾床槽第１室、第２室の上部に設けています。流量変動を緩和し、その後の担体流動生物濾過槽にかかる負荷を軽減することにより、安定した処理水を得ることができます。

■ ブロワ

タイマー制御…逆洗設定時刻になると、弁が作動し逆洗を実施する。

■ 担体流動生物濾過槽

担体流動生物濾過槽は、担体流動部、生物濾過部より構成されています。

担体流動部はばっ気により常時担体が流動し、担体に付着した微生物により汚水中の汚濁有機物を吸着分解し、生物濾過部は担体流動部で発生した汚泥の除去を目的としています。槽内には合成樹脂製多孔質担体(以下担体と略す)を投入しています。

■ 消毒槽

担体流動生物濾過槽から移行した水を塩素消毒器内の固形塩素剤と接触させ消毒後、放流します。

３．警告表示

注意…1．マンホール･点検口などからの転落･傷害事故防止

① 工事中は、必要なとき以外はマンホール・点検口などのフタを必ず閉めてください。

② マンホール・点検口などのひび割れ・破損など発見したら、直ちに取り換えてください。

③ フタをコンクリート面や地面等に置く時は、落下させずに丁寧に置いてください。

④ ロックの変形、破損、脱落等が生じた場合、速やかに交換してください。

⑤ 安全荷重 250 kgのフタは車両等が載るところでは、使用しないでください。

⑥ 安全荷重 500 kgのフタには 2000 cc を越える車両は乗せないでください。

これらの注意を怠ると、転落・傷害が生じるおそれがあります。

注意…2．傷害事故防止

槽の吊り上げ・据え付け作業には、玉掛けを確実に実施し、槽の下には立ち入らないように、安全を十分に確認して作業してください。

これらの注意を怠ると、傷害事故が生じるおそれがあります。

注意…3．転落事故防止

据え付け後の水張り、浮上防止金具の取り付けなどの作業時に槽本体に直接のると、滑りやすく落下危険があります。足場板などを使用し、注意して作業してください。

これらの注意を怠ると、転落事故が生じるおそれがあります。

注意…4．転落事故防止

埋設工事に際して、穴を掘った周囲には、防護柵をつくり関係者以外立ち入らないようにしてください。

これらの注意を怠ると、転落事故（傷害）が生じるおそれがあります。

注意…5．感電･発火事故防止

① アースが必要なブロワ・制御盤などには、必ずアース工事をしてください。

② ブロワの電源は、防水型接地端子付コンセントをご使用ください。

これらの注意を怠ると、感電・発火が生じるおそれがあります。

４．施工上の留意事項

浄化槽工事は、工事現場で浄化槽設備士が指導してください。

参考① 浄化槽の設置届けを確認してください。

参考② 工事施工要領書・工事仕様書、浄化槽工事の技術上の基準などの諸法令、確実に守って工事してください。
工事が不完全な場合は、槽の破損による汚水漏れ・放流水質の悪化などの原因になります。

参考③ 電気工事は電気工事士の資格を持つ、専門業者にお願いしてください。

参考④ ブロワを設置する場所は、通気・防湿・騒音に配慮してください。
振動防止のために、基礎はコンクリート製とし、ブロワ自体の重量や振動に耐えるものとしてください。
据え付けコンクリート基礎は、建築物と直接繋げることなく、地盤（ＧＬ）より 10cm 以上高くし、ブロワ台の外寸より 5cm 大きくしてください。

参考⑤ 工事は浄化槽工事の技術上の基準を守り、特に基礎工事、埋め戻し工事、上部スラブ打設などは、施工要領書に基づき正しく行ってください。
また、駐車場・車庫にする場合、交通量の多い道路ばたに設置する場合、近くの建築物荷重が槽本体に影響する場合、軟弱地盤に施工する場合、多雪地帯に設置する場合などは特殊工事になりますので、槽本体に影響を及ぼさない補強工事を行ってください。

参考⑥ 浄化槽を破損しないように埋め戻しには、つぎのような事項に注意して作業してください。
(1)水張りの後に、埋め戻し作業を行うこと。
(2)埋め戻しの土は、石ころなどが混入しない砂質土を用いること。
(3)埋め戻し時に重機のバケットなどを槽に当てたり、高いところから埋め戻しの土を落とさないこと。

参考⑦ 設置工事完了後は、工事竣工チェックリストで確認してください。

参考⑧ 使用者に、浄化槽の保守点検業者と維持管理契約をするよう指導してください。

参考⑨ 取扱説明書・保証書等を施主に手渡す時は必ず受領書を受け取り保管すること。

参考⑩ 取扱説明書などが使用者に渡っていないときは、弊社にご連絡するようお伝えください。早速郵送いたします。

参考⑪ 浄化槽の設置工事に関して不詳な点は弊社窓口にお問い合わせください。

株式会社ダイキアクシス　生産グループ　生産管理部
〒791－8022　松山市美沢 1－9－1
TEL（089）927－1889　FAX（089）927－1973

５．施工開始前にお確かめください

① 施工資格が必要です

浄化槽の施工を行うには法令上の資格制限を受けます。つまり浄化槽工事を行う場合は当該工事現場に浄化槽設備士を置かなければなりません。

② 設置置届はお済みでしょうか

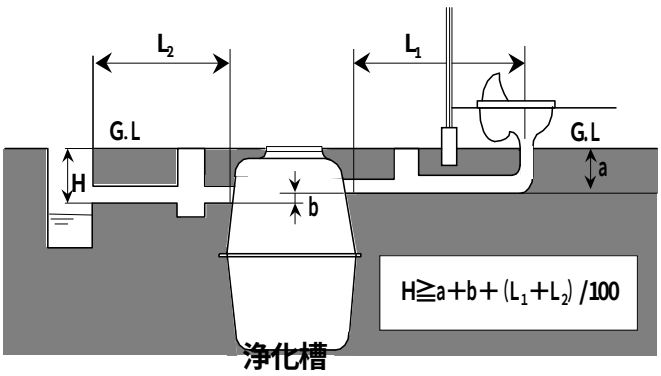
施工の前に必ず設置届と所轄の役所へ提出し、許可をもらってから工事に着手してください。

③ 設置場所は適当ですか

1) 浄化槽はトイレ等と放流先を最短距離で結ぶよう、位置を決定します。
2) 次のような場所への設置は避けてます。
   - ●屋内、床下、物置の下などの維持管理できないところ
   - ●大雨などで浸水しやすいところ
   - ● 建物の基礎の下などの建物の荷重が直接かかるところ
3) ブロワは、水気・湿気・塵埃の多い所、風通しの悪い所への設置は避けます。
   また、寝室や応接間など運転音の気になる所への設置も避けます。

④ 放流に必要な勾配がとれますか

トイレ・風呂及び台所などの出口配管と放流場所との落差を測り、放流に必要な 1/100 以上の勾配をとります。



適切な勾配のとり方

ａ：風呂、台所、便器等、出口配管の深さ(ｃｍ)
ｂ：浄化槽自体の落差(ｃｍ)
L1：風呂、台所、便器等から浄化槽までの配管距離(ｃｍ)
L2：浄化槽から放流場所までの配管距離(ｃｍ)
H：設置に必要な最小落差(ｃｍ)

※放流先の水位変動にご注意ください。

逆流するような場所への設置は避けてください。

６．工事の段取り

① 現場調査における確認事項

工事の段取りとしては、まず現場調査を行い、工事を行うための次の条件を確認します。

1) 設置場所の広さ …… 設置図面通りの広さがあるか。
2) 配管路の状況 …… 浄化槽の配管経路に障害物はないか。
3) 搬入、搬出路の状況 …… 浄化槽の持ち込みができるか。
   残土処分の搬出路、槽本体の搬入路はあるか。
4) 設置場所周囲の状況 …… 資材置場、トラック、残土の一時置場があるか。
5) 土質の良否及び湧水の有無 … 土質の状況はどうか。
   湧水はあるか。
   矢板など必要か。
6) 工事電力、工事用水の状況 … 現場で電気、工事用水が調達できるか。

② 施工に必要な作業道具器材の点検

浄化槽の施工にあたっては次の道具類(重機含む)や材料が必要です。

道具類	穴　　掘	バックホウ スコップ、ツルハシ等
	基礎固め	タンパ(ランマ)、又は振動コンパクタ 角材等
	水平をとる	水準器、水糸、渡材
	その他	左官ゴテ、バケツ、ホース、スパナ、スケール、モンキー、ポンプ、滑車、バール
材　料	コンクリート	レディーミクストコンクリート(普通ｺﾝｸﾘｰﾄ)又は、ポルトランドセメント、骨材(砂、砂利) 栗石、異形鉄筋、型枠、シュート、養生マット等
	配管材料	塩化ビニール管、エルボ、チーズ管、接着剤
	その他	会所升

③ 浄化槽及び付属部品の確認

1）表示の有無、表示内容を確認します。

2）納品書の明細等により、付属部品の不足の有無を点検します。
点検の際に、槽の内部や付属部品に土やゴミがつかないように注意してください。
※特に付属品の担体には十分に注意を払ってください。

④ 浄化槽工事業者登録票の準備

浄化槽法第 30 条により現場ごとに、標識を掲げます。

７．施工の手順と注意事項

① 水盛やりかた

１）敷地整理の後、浄化槽の設置位置を決定するために地縄張りをします。

２）配置図に基づき予定位置に縄（または白線、石灰）を張り、建築主と工事関係者立会いのもとに、敷地、建物、敷地境界との関係を確認します。

３）レベル、位置、方向、芯を表示するためにやりかたを設けます。

(1) 掘削予定部分から少し離れて要所、要所に水ぐい（地ぐい）を打ちます。

(2) 水抜きの上端をカンナがけしておいて水ぐいに高さの基準を印し、水抜きの上端をこれに合わせて水平に取り付けます。

(3) 工事に支障のないところに逃げ芯を設け、その養生をしておきます。

② 掘削作業

槽本体を埋設するための掘削は、施工図に基づいて掘ります。槽を据え付ける時は、工事者が穴の中に入って作業をしなければならないので余裕のある掘り方（30cm 以上の余掘り）と、安全な法面勾配をとってください。

１）有資格者（浄化槽設備士）による指揮のもとで作業を開始します。

２）掘削は、周囲の建物等から十分距離をとり、浄化槽及び建物に悪影響がないようにします。

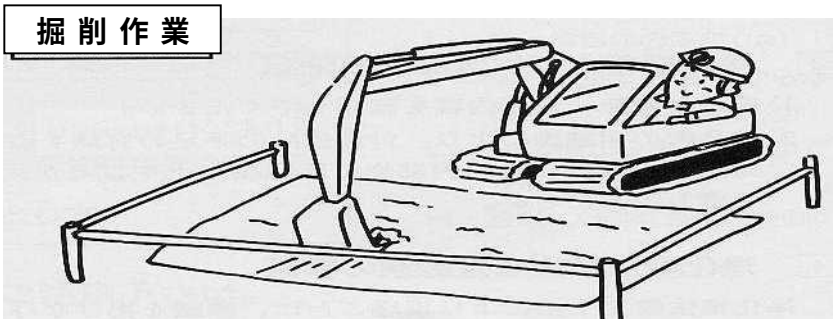
３）掘削場所の水道管やガス管、電線管など地下埋設物の有無を確認して、破損や事故がないように十分注意して工事をすすめます。

４）設置場所の周囲、掘削深さ、地質や地下水の状況に応じて、山留や水替工事も検討します。

５）掘削周囲は危険防止のため安全柵や仮囲いを設けて、安全標識を見やすい位置に表示します。

６）掘削しすぎた場合は、掘削土で高さを調節すると地耐力が低下する可能性があるので、捨コンクリート又は基礎コンクリートで高さを調整します。

掘 削 作 業



③ 基礎工事

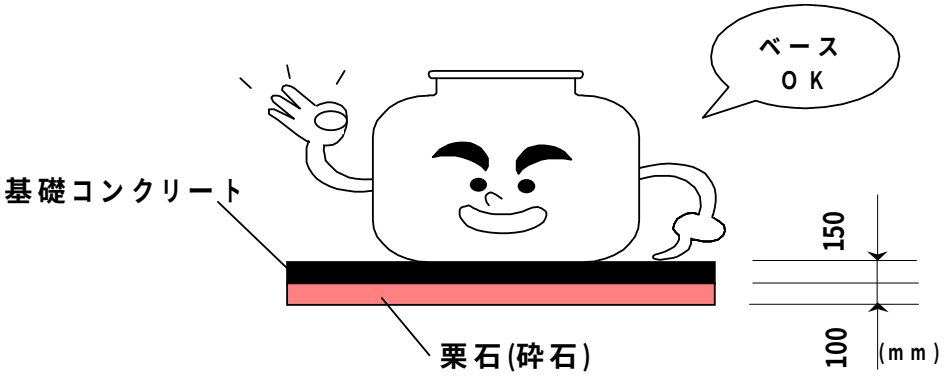
1）掘削終了後、栗石（砕石)と目潰砂利による地業工事を行いますが、厚さは 100 ㎜以上とします。

2）基礎コンクリートは圧縮強度 180 kg/cm² 以上のコンクリートを 150 ㎜以上の厚さで、水平に打設します。(捨てコンクリート 50 ㎜、鉄筋コンクリート 100 ㎜以上)

3）面積が大きい場合は水準器で水平を確認し、目視のみによる打設は避けます。

4）基礎コンクリートを省略して砂だけを敷いた基礎をつくると長い間に砂が洗われて、栗石や地中の石が直接槽の底部に接し、槽本体の破損につながります。

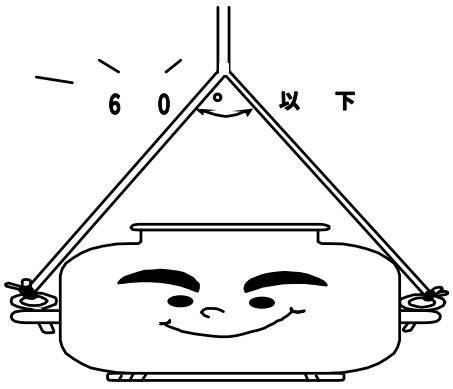
5）上部が駐車場等の場合は基礎コンクリートの厚み、配筋等が違ってきますので、施工図または工事仕様書等にしたがってください。



④ 据え付け工事

本浄化槽は工場生産品ですから現場据付けが簡単で短期間で工事が終了します。また面圧には十分な強度がありますが、強い衝撃を与えると破損するおそれがありますので、静かに降ろしてください。

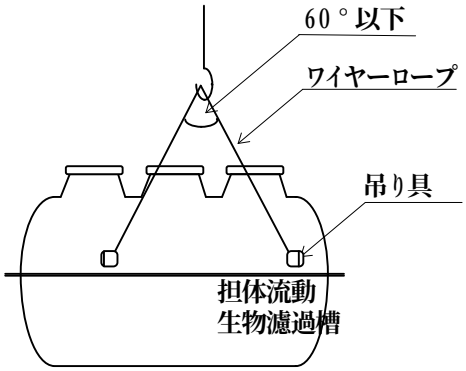
なお、**吊り上げ時に浄化槽が大きく傾かにないよう、**十分注意してください。



1）本体の吊上げ

【ＴＲＢ-14～35 型の場合】

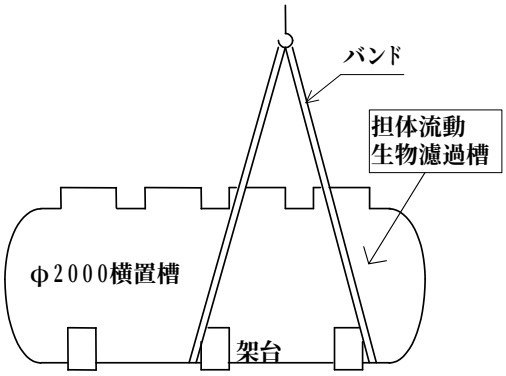
浄化槽の側壁に吊り具を 4 ヶ所設けているので、2 本のロープによって必ず 4 点吊りとします。吊り上げ角度は 60°以下となるようにロープの長さを調整します。



【ＴＲＢ２-40～50 型の場合】

吊り上げ用のバンドを円筒槽の腹部に 2 本回して吊り上げます。バンドが開口部に当たる場合は開口部の保護をし、本体を水平な状態で吊り上げます。

※本体の荷降ろしに際してはレッカー車、クレーン車を使用しますが、操作及び玉掛け作業は必ず有資格者によって行い、十分安全確認をしてください。

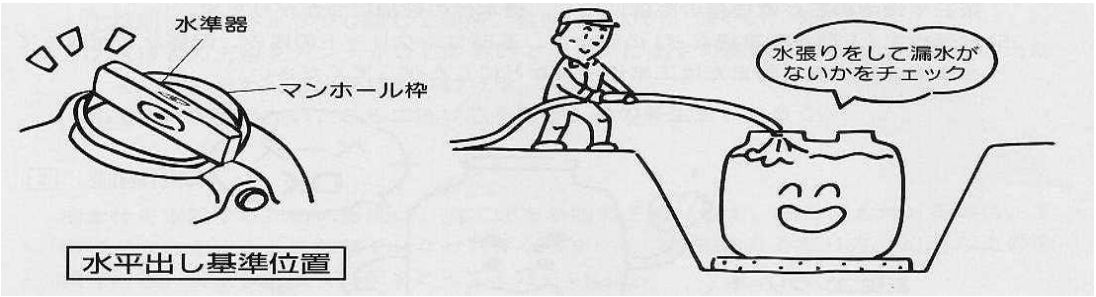


2）施工図にしたがい、墨出しした位置に本体を静かに降ろします。

3）流入（入）、流出（出）の方向や設置レベルを確認します。

4）設置後、槽の安定をチェックして、開口部の上端で水準器等で水平を見ながら調節します。

5）水張りをしながら、再度水平を確認し、漏水がないことを槽外の周囲を確かめます。



⑤ 本体の浮上防止及び固定

浄化槽を地中埋設する際、地下水等で浮上の恐れのある現場では、浮上防止対策を行います。３５人槽以下の場合は、付属（オプション品）の浮上防止具を用い、４０人槽以上の場合は、浮上防止バンド(標準付属)を用いて、基礎に敷設した鉄筋にシャックルで止め、ターンバックルで締め込みます。なお、４０人槽以上の場合は、浮上の恐れがない場合でも、浄化槽の固定として浮上防止バンドを用います。また、ネジ部・鉄筋には防錆塗装を行ってください。

〇根巻きコンクリートの打設

別置型の原水ポンプ槽(ＧＰ-１２Ｋ)及び放流ポンプ槽(ＡＣ－５Ｐ)等の付く場合には、施工図に従って本体下槽部に根巻きコンクリートを打設します。

⑥ 埋め戻し

1）浄化槽の埋め戻し前に必ず槽内の水張りを行います。水張りをしないで埋め戻しをすると槽の移動や傾きが起こります。また、埋め戻しの土圧により槽本体や仕切板等に変形が発生する恐れがありますので注意してください。

なお、水張りをする際は下記の手順で行ってください。

(1) 嫌気濾床槽第１室から水張りを行い、１室と２室の仕切板の移流口から嫌気濾床槽第２室に移行させ、M.W.L付近で流入を停止します。

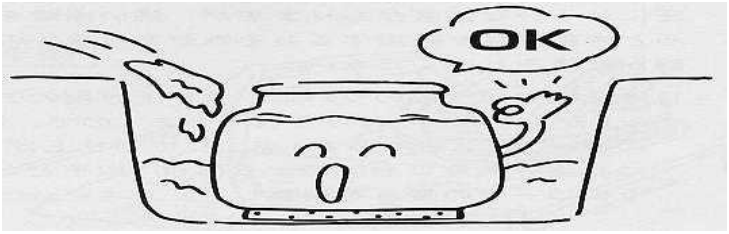
(2) 担体流動生物濾過槽の水張りを行ない、消毒槽に越流する前に流入を止めます。その後、消毒槽の水張りを行ないます。

※ 担体流動生物濾過槽が満水になっているにもかかわらず水を勢いよく入れ続けると、担体が水の流れに伴って巻き上がり流出する恐れがありますので、水張り時には注意してください。

2）埋め戻しの時、マンホール用の開口には必ず蓋をして、土砂が槽内に入らないようにします。

3）埋め戻しの土は石などが混じっていない土砂を用いて、周囲を 20～30cm 毎に均等に埋め戻しします。砂質土の場合は水じめ及びタンパ(ランマ)、振動コンパクタ等で突き固め作業をしますが、粘土質の場合は水締めを避けて転圧のみとします。

4）埋め戻しに当たっては槽の水平を確認しながら行います。片埋めは槽の傾きによる水平不良や局部荷重により破損が発生する恐れがあります。



⑦ 流入管、流出管工事

1）槽外配管工事は必ず埋め戻しの後に、槽が安定した状態でそれぞれの管を接続します。（排気管工事も同様）。埋め戻し前に 1 m程度の逃げ配管をすると、土砂の重みによって逆勾配や槽本体の変形につながります。

2）槽本体が変形するような荷重を与えないように、配管をソケットに接続します。（必ず塩ビ接着剤を塗布し、確実に接着すること）

配管口径と配管勾配は下表を標準とします。

管径	勾配
φ125	1／100

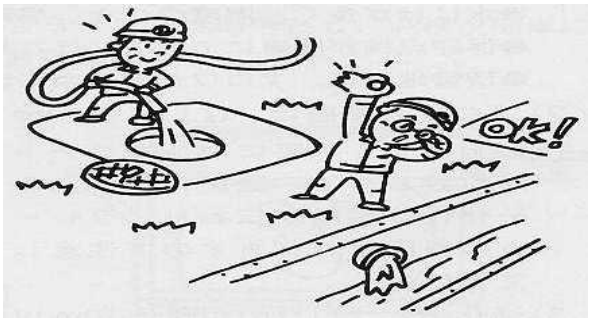
3）流入管路の升はインバート升とし、雨水が入らないように密閉できる蓋をします。また、臭気の逆流を防止するため、屋内の排水管にトラップ升がついていない場合はトラップ付きのインバート弁を設置します。

4）配管の土かぶりは通常 20cm 以上ですが、交通荷重のある場合は 60cm 以上とします。

5）凍結や特殊な条件がある場合は各都道府県の指導に従ってください。

6）浄化槽への配管と雨水配管とは必ず別配管とし、雨水が浄化槽に入らないようにします。

浄化槽の放流側の升に雨水配管を接続する場合は、雨水が浄化槽に逆流しないように、十分な落差をとります。



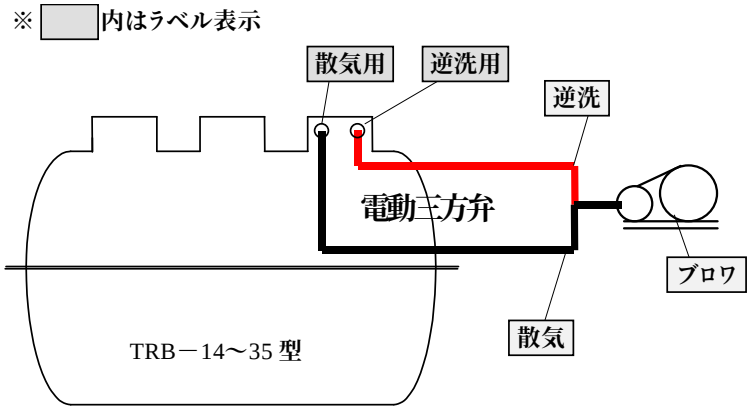
⑧ 送気管工事

ブロワ付属の電磁（電動）弁ユニットには散気用と逆洗用の吐出口があります。浄化槽本体にも、散気用と逆洗用の送気口がありますので、誤接続しないように注意してください。

また、送気配管は、ＴＲＢ-14～35 型とＴＲＢ２-40～50 型で異なりますので、それぞれの接続例を示します。

※送気管を正しく接続しないと所定の処理性能が発揮できない恐れがあります。

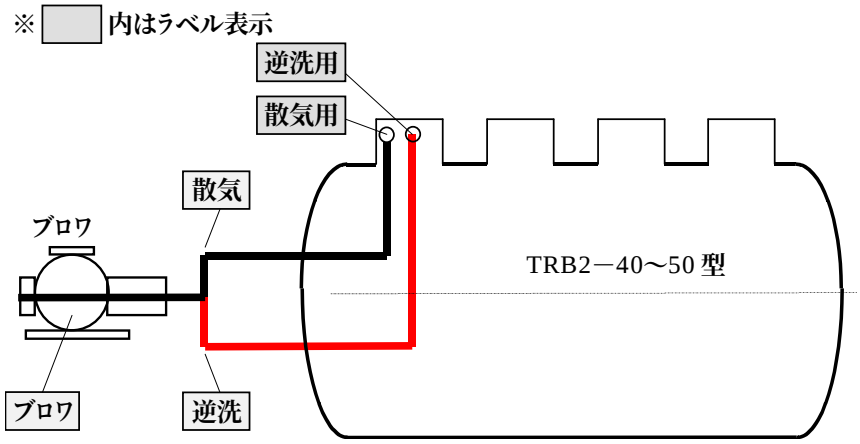
【ＴＲＢ－１４～３５型】



○ ブロワ側に散気用と逆洗用の吐出口があります。

○ 担体流動生物濾過槽の開口部に散気用と逆洗用の接続部があります。ブロワ側の散気口と開口部の散気用を、同様にブロワ側の逆洗口と開口部の逆洗用をそれぞれ接続します。

【ＴＲＢ２－４０～５０型】



○ ブロワ側に散気用と逆洗用の吐出口があります。

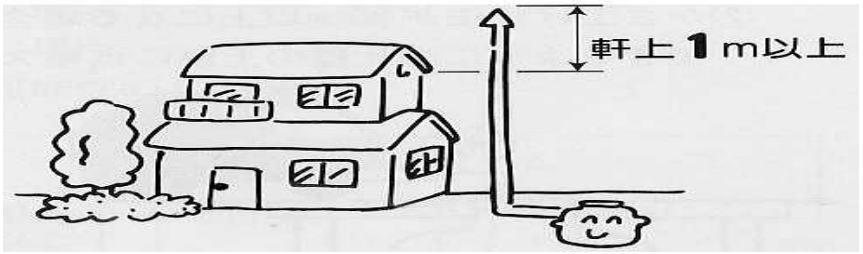
○ 担体流動生物濾過槽の開口部に散気用と逆洗用の接続部があります。ブロワ側の散気口と開口部の散気用を、同様にブロワ側の逆洗口と開口部の逆洗用をそれぞれ接続します。

⑨ 排気管工事

浄化槽には臭気が付きものですので、排気管は必ず設けてください。浄化槽の運転状態、設置場所などにより臭気が問題になる場合がありますので、ご注意ください。

1）排気管は、所定の場所まで横引管で延ばし、エルボ等を使ってなるべく近隣の関係を配慮し、通風の良い所を選んで立ち上げます。

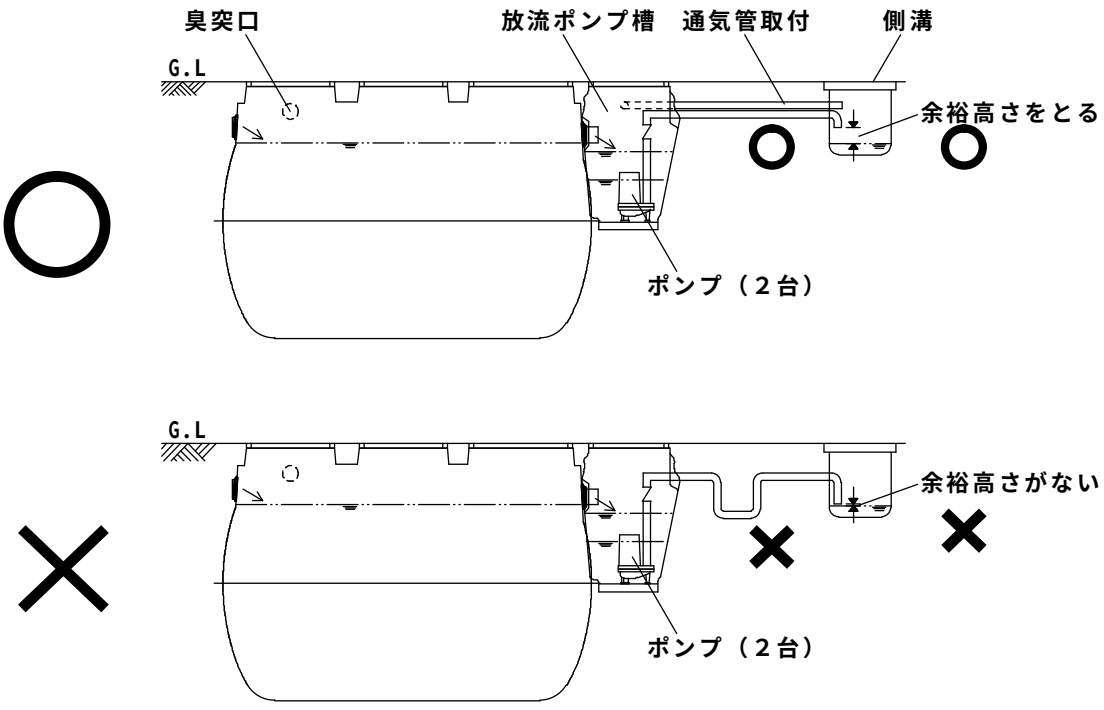
2）立ち上がり高さは、近隣の住居を考慮に入れ、苦情が生じないように最低 3 m以上で、横引き長さの 2 倍以上としたり、あるいは管径を太くしたりして、軒上 1 mまで上げます。（横引管はなるべく短くする）



3）風などで倒れないようにサポートを付けます。

4）横引管の勾配は、必ず浄化槽に向かって下り勾配にします。配管が逆勾配になっていると、結露水が管内に溜まり、排気ができなくなります。

5）放流ポンプ槽（一体型、別置）を設ける場合は、必ず排気管もしくは通気管を設けてください。なお通気管を設ける場合は放流ポンプ槽に側溝の排水が逆流することのないよう、側溝の高い位置に上向きこう配に接続するように注意してください。



⑩ 上部スラブコンクリート工事

1） 通常施工（無荷重・標準土圧の場合）

スラブはマンホール枠の周囲を枠の端から 20～30cm 離して打ち、表面を仕上げてください。なお、施工図に従って配筋し、型枠を組んでコンクリートを打ちます。

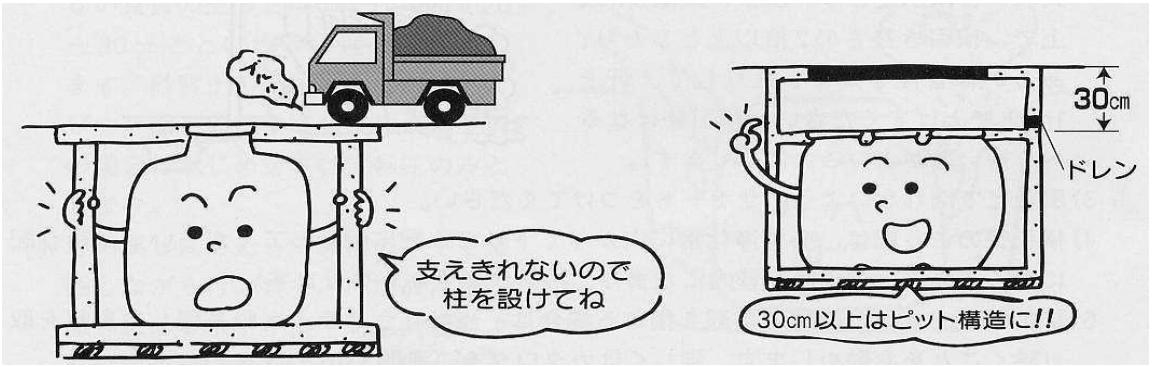
上部スラブの厚さは 100 ㎜以上、
D10@200 シングル配筋
コンクリートの圧縮強度は 180kg/cm² 以上

2） 特殊施工

上部荷重のある場合、嵩上げ寸法 30cm 以上の場合は、支柱工事を、その他特殊な条件のある場合は条件にあわせ特殊施工が必要です。**詳しくは、施工図に基づいて行ってください。**

1)上部を駐車場に利用する場合は浄化槽に直接荷重が掛からないように支柱工事が必要です。下図のようにベースとスラブの鉄筋コンクリートの間に柱を設けて、上部荷重が直接浄化槽に掛からない構造とします。

2)嵩上げ寸法が 30cm 以上になる場合は次図のようなピット構造とし、点検が容易にできるように浄化槽の上部に点検スペースを設けます。



支柱工事　　**ピット工事**

3)崖下などの大きな側圧を受ける場合

側圧を受ける場合は擁壁を設けた施工とし、浄化槽に力が及ばない施工とします。

4)積雪、寒冷地での施工方法

多雪地・寒冷地では、雪の自重による浄化槽の破損や、浄化槽の凍結に留意しなければなりません。従って、二重スラブ工法等で管理面を考慮しながら、凍結深度以下に浄化槽を設置します。

5)基礎に高低差が生じる場合

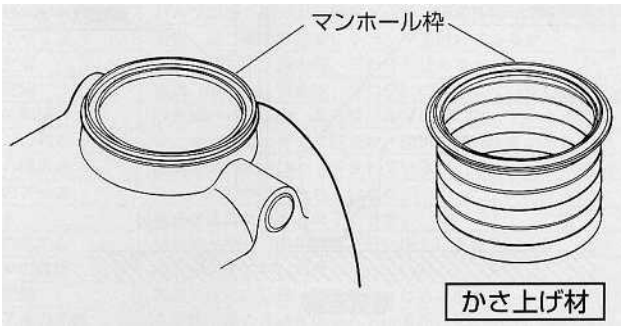
標準施工状態では、基礎に高低差が生じない設計にしていますが、付帯設備の原水ポンプ槽が設置される場合に限り流入管底により差が生じます。その場合、立壁で基礎同士を連結する方法を採用します。

⑪ かさあげ工事

【ＴＲＢ－１４～３５型】

流入管底がGL－280㎜（TRB-25～35 型は 430 ㎜）を超える場合は、付属の塩ビ製の嵩上げ材を各開口部(マンホール枠)に取り付けて、かさあげをします。樹脂製のマンホール枠に塩ビ製の嵩上げ材をはめ込みます。

鋳鉄のマンホール(T-6 以上)を使用する場合は、樹脂製のマンホール枠に鋳鉄のマンホール枠をのせます。鋳鉄のマンホール枠はボルトで固定できないので、スラブ配筋に固定します。なお、流入管底がGL－580（TRB-25～35 型は 730 ㎜）を超える場合は、原水ポンプ槽を設けてください。



かさあげ工事

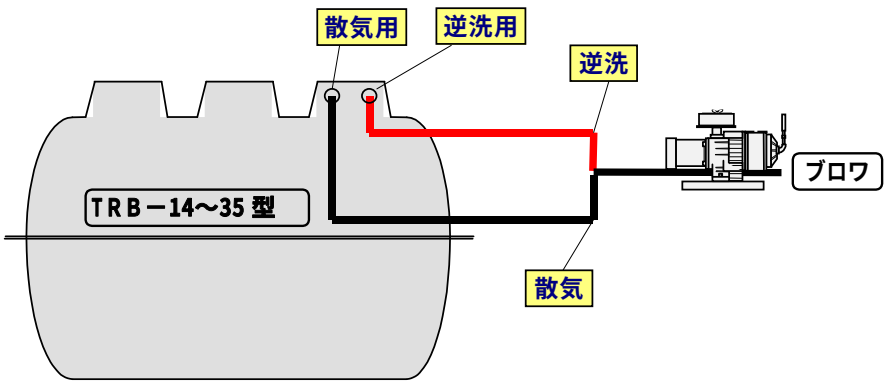
【ＴＲＢ２－４０～５０型】

流入管底がGL－555 ㎜を超える場合は、付属の FRP 製の嵩上げ材を各開口部に取り付けて、かさあげをします。本体開口部と嵩上げ材の間に付属の嵩上げ用シール材をはさみ、付属のタッピングビスを用いて固定します。

なお、流入管底がGL－850 ㎜を超える場合は、原水ポンプ槽を設けてください。

⑫ ブロワ(制御ﾕﾆｯﾄ)据え付け工事

ＴＲＢ型（ＴＲＢ 2 型）のブロワは吐出口を切り替えるための弁を付属しています。１台のブロワで散気管、流量調整装置、槽内循環装置、あるいは逆洗管、逆洗排水移送装置に空気を供給します。ブロワの吐出口は**散気側**と**逆洗側**に分かれており、それぞれ散気用、逆洗用と表示しています。ブロワを運転して、送気配管が正しく接続されていることを確認してください。

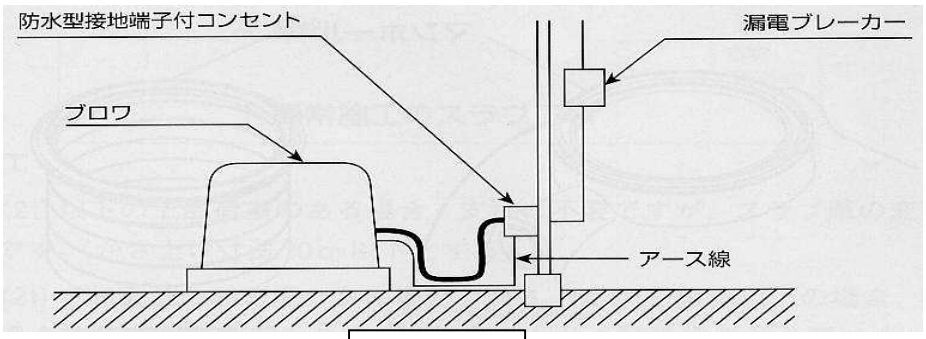


ブロワ据付

1）風雨や直射日光が当たる個所は避けて通風の良い場所に設置します。
2）寝室に近い所や音が反響する囲まれた構造の場所は運転中の音や振動の問題が発生しやすいので避けてください。
3）ブロワの基礎はＧＬより 10cm 以上とし、水平にコンクリートを打設します。 建屋の基礎との一体化は振動が伝播し、クレームの原因となりますので注意してください。
4）積雪地域はブロワが雪の中に埋設する可能性のない場所に設置してください。
5）水はけが良く、湿度の少ない場所に設置してください。
6）保守点検が容易にできて、塵埃の少ない場所に設置してください。
7）浄化槽とブロワの距離はできるだけ短くし、直線配管とします。

⑬ 電気配線工事

1）電気工事は資格のある専門の業者に委託します。
2）電気配線は屋外専用回路を施し、制御ユニット(制御盤)とブロワを配線します。なお、配線は電線管で保護して下さい。
3）ブロワは付属のアース線を利用して、必ず接地工事をしてください。
4）通電して異常の有無を確認してください。
5）配線工事は設計書に基づき安全、確実な工事を施して下さい。



電気配線

⑭ 付属部品の取り付け

1）消毒剤のセット
消毒剤を袋から取り出して、所定の位置に正しくセットします。
2）消泡剤のセット(オプション)
固形消泡剤を槽内の送気管に吊るします。

⑮ 付帯設備(ｵﾌﾟｼｮﾝ)

1）ポンプの取り付け

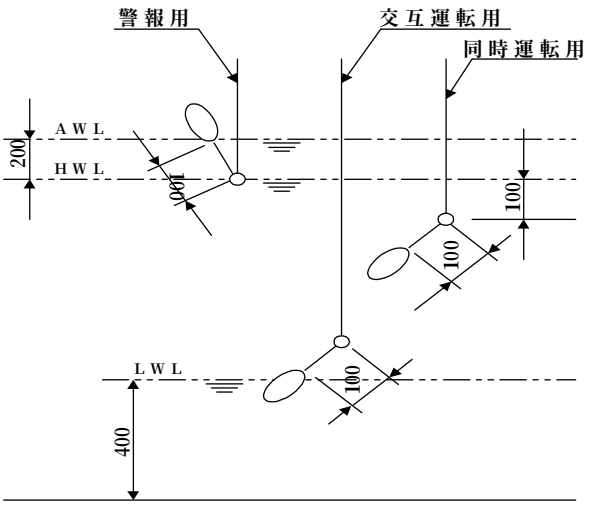
揚水管のネジ部にシールテープを巻き、ポンプ吐出部にネジ込みます。付属のトラロープの端部をポンプの取手部に縛り付け、ポンプをポンプ台上にセットします。揚水管は少し長めに用意してありますので、現場合わせにより所定の長さに切断して横引き管に接続します。なお、トラロープはUボルトに巻き付けます。

2）フロートスイッチの取り付け

・ 付属のフロートスイッチは下図のようにコード長さを設定して、開口部に取り付けてある碍子に固定します。

【原水ポンプ槽】

・別置型　GP-12K

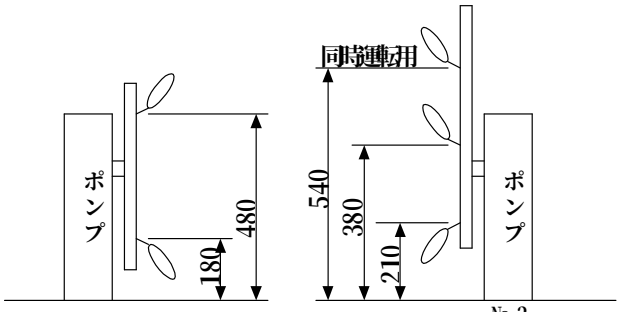


原水ポンプ槽　ＧＰ－１２Ｋ

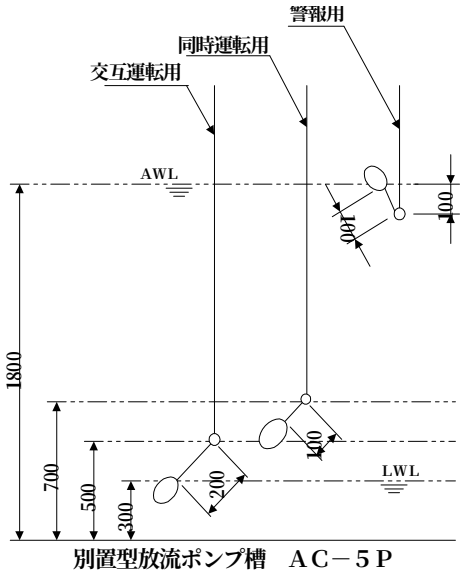
【放流ポンプ槽】

・一体型　(右図)

・別置型　AC-5P（下図)



一体型放流ポンプ槽



別置型放流ポンプ槽　ＡＣ－５Ｐ

８．試運転時の確認事項

試運転に先立ち、以下の項目について確認をして下さい。なお、各バルブは浄化槽出荷時に下表の開度で設定していますが、以下の要領で確認及び調整してください。

浄化槽出荷時のバルブ開度

人槽	流量調整装置		槽内循環装置		逆洗排出装置	
	水量［L/分］	ﾊﾞﾙﾌﾞ開度[%]	水量［L/分］	ﾊﾞﾙﾌﾞ開度[%]	水量［L/分］	ﾊﾞﾙﾌﾞ開度[%]
14	2.92	30	7.78	30	9.72	65
18	3.75	35	10.00	35	12.50	65
21	4.38	35	11.67	35	14.58	65
25	5.21	40	13.89	40	17.36	70
30	6.25	45	16.67	40	20.83	70
35	7.29	50	19.44	45	24.31	70
40	8.33	47.5	22.22	47.5	27.78	65
45	9.38	50	25.00	47.5	31.25	67.5
50	10.42	52.5	27.78	50	34.72	67.5

(1)送気配管

送 気 配 管	結果	備　　考
ブロワ側の散気用と担体流動生物濾過槽開口部の散気用が接続されていますか。		p12 をご参照ください。
ブロワの逆洗用と担体流動生物濾過槽開口部の逆洗用が接続されていますか。		p12 をご参照ください。

(2)槽本体

①嫌気濾床槽

項　　目	結果	備　　考
水位は正常ですか。		嫌気濾床槽第 1、2 室とも LWL 以上あれば正常です。
異物はありませんか。		異物があれば除去してください。

②流量調整装置

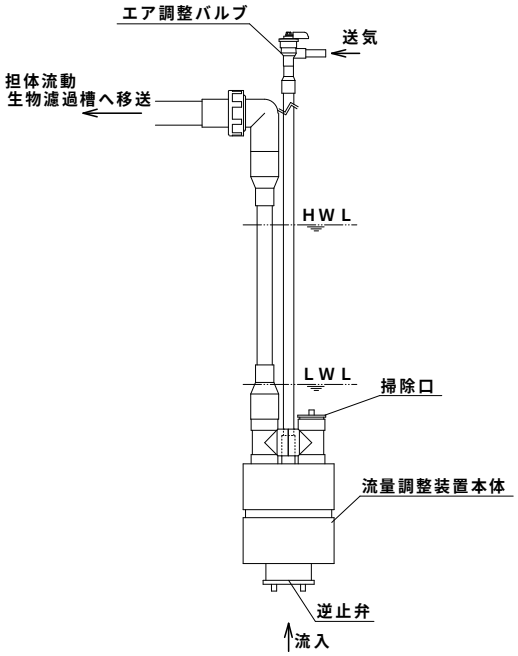
項　　目	結果	備　　考
移送量は適切ですか。		ブロワを作動し、以下の調整方法を参考に所定の移送量になるようにエア調整バルブを調整してください。移送水量は日平均汚水量に対し 1.5 倍です。
異物はありませんか。		異物があれば除去してください。

●流量調整装置（定量ポンプ）の移送量調整方法

1）流量調整装置の動作

流量調整装置は間欠的に一定量を排出する動作を繰り返します。この動作の間隔(サイクル時間)を変えることにより、移送量を調整することができます。サイクル時間の調整は、エア調整バルブで行います。

嫌気濾床槽の水位がおおむねMWLにある時点でサイクル時間の調整を行ってください



流量調整装置

2）移送量の調整方法

移送量は以下の手順により調整してください（実使用水量が分かれば、それに応じた移送量に調整してください）。

ⅰ)移送量の算出

移送水量は以下の式により求めます。

移送水量[L/分]＝日平均汚水量（実水量）[㎥/日]×1000／24／60×1.5

ⅱ)１サイクル時間の算出

１サイクルあたりの移送量を計量し、以下の式から１サイクル時間を求めます。

１サイクル時間[秒]＝60×Ｑｓ／Ｑｍ

Ｑｓ：１サイクルあたりの移送量[L/ｻｲｸﾙ]※)

Ｑｍ：ⅰ)で求めた移送水量[L/分]

※)おおむね14～35人槽は1.10L/ｻｲｸﾙ、40～50人槽は2.45L/ｻｲｸﾙです。

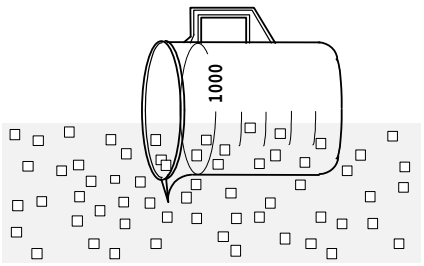
ⅲ)エア調整バルブの開度を変化させ、１サイクルの時間に合わせる

流量調整装置からの汚水の移送状況を見ながら、１サイクルの時間がⅱ)で求めた数値になるようにエア調整バルブで調整します。

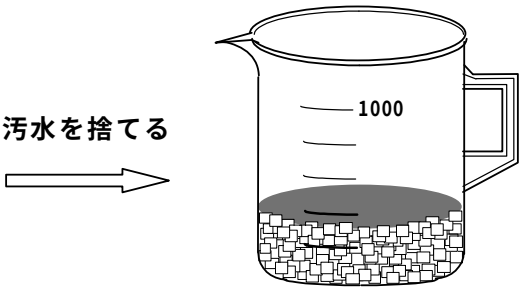
③担体流動生物濾過槽

項　　目	結果	備　　考
ばっ気の状況は正常ですか。		ブロワを作動し、ばっ気が行われているか確認してください。
異物はありませんか。		異物があれば除去してください。
担体は流動していますか。		ブロワを作動し、担体が流動しているか確認してください。水張り直後にばっ気を開始すると担体が浮上する場合がありますが、汚水が流入し始めると1～3日中に全量流動します。
通常散気時に流動している担体量は適切ですか（担体が全量流動している場合）。		ブロワを作動し、担体流動生物濾過槽の汚水を担体ごと1L程度すくい、汚水を捨てた後、たまっている担体の容積を測定します。担体の容積がすくった汚水量に

		対し 30%前後あれば適正です。確認方法を下図に示します。
槽内循環装置の循環量は正常ですか。		ブロワを作動し、日平均汚水量の 4 倍以上になるようにエア調整バルブを調整してください。
逆洗時に、生物濾過部がばっ気され、担体が流動していますか。		ブロワを作動後逆洗スイッチを【ON】とし、生物濾過部がばっ気（逆洗）され、担体が流動することを確認してください。水張直後にばっ気を開始すると担体が浮上する場合がありますが、汚水が流入し始めると除々に馴染んでいきます。
逆洗時の逆洗排水移送量は適正ですか。		担体流動生物濾過槽がWLの状態にてブロワを作動後、逆洗スイッチを【ON】とし、日平均汚水量の 5 倍以上になるようにエア調整バルブを調整してください。



担体流動生物濾過槽の汚水を
担体ごと１Ｌ程度すくう。



沈降している担体
の容積を測定。

④消毒槽

項　　目	結果	備　　考
異物はありませんか。		異物があれば除去してください。
薬剤は充填されていますか。		固形塩素剤を充填してください。

(3)付帯設備

ブロワ	結果	備　　考
オイルの量は適切ですか。(ロータリーブロワ)		オイルゲージ棒または油面計でF～Eの間迄入っていること
ベルトの張り具合はよいですか。(ロータリーブロワ)		棒をベルトの上から両プーリーにあて、中間で親指が軽く入る程度
異音はしませんか。		エアクリーナーをはずし、少量のオイルをローター内へ注入して下さい(ロータリーブロワの場合)。
吐出圧（kg/cm²）は正常ですか。		0.2～0.3kg/cm² (20～30kpa)
電流値（A）は正常ですか。		出力（kW）の 4 倍程度の値

制御ユニット	結果	備　　考
時刻と逆洗時間の設定は正しいですか。		逆洗時刻は 2:00、14:00（2 回/日、12 時間間隔）の 1 日 2 回で、1 回あたり 15 分の設定です。
逆洗スイッチ「ON」で逆洗が開始されますか。		
逆洗スイッチを「ＯＦＦ」に戻していますか。		

原水ポンプ槽	結果	備　　考
フロートの位置は正しいですか。		p17 のフロート設定の目安を参照して下さい。
異物はありませんか。		
攪拌の状況は正常ですか。		空気量調整バルブを開けて、ばっ気型スクリーンが適量ばっ気されるようにして下さい。

放流ポンプ槽	結果	備　　考
フロートの位置は正しいですか。		p17 のフロート設定の目安を参照して下さい。
異物はありませんか。		

９．竣工検査と引き渡し

1）確認と試運転が完了したら、（必ず、所轄関係官庁の竣工検査を受けた後）設置者に引き渡してください。

2）引き渡し時には、使用方法を必ず説明してください。

3）浄化槽に添付されている使用説明書（取扱説明書）、保証書、維持管理要領書を、必ず設置者に手渡してください。

4）維持管理業者が決まっている場合には、竣工検査の際に一緒に立ち会うように連絡して、必要な引き継ぎを行ってください。